

すえつく精一
後援会会報

まっすぐ国政報告通信

第4号
令和5年6月1日発行

ごあいさつ

皆様には平素より大変お世話になっております。皆様のご支援をいただき初当選いたしました。早いもので1年半が過ぎました。改めまして、皆様のご支援に心から御礼申し上げます。

私は、これまで地元で約20年にわたり政治活動をさせていただいている間、貫して「政治は暮らしを良くするためにある」と訴え続けて参ります。

した。それは私の強い信念でもありません。

暮らしを良くするためには、地域で生活する人々が何を求めているか、何に困っているかを知ることです。だからこそ、私は、足を使い、現場をよく見て、そこにある声に耳を傾けて参りました。そして、その声を国会に届け、ひとつひとつ確実に解決に導いております。

暮らしを良くすることは国民の生活を第一に考えることであり、それはまさに政治のあるべき姿です。ところが、今の政治は、国民の生活を二の次、

三の次にしているように思えます。それを一番感じているのが国民ではないでしょうか。その気持ちが投票率に表れていると思います。

直近では、4月に行われた長崎県議会議員選挙の投票率は46.56%で、佐世保市長選でも52.88%でした。そして、今年4月に朝日新聞が行った全国世論調査では、「政治を信用していない」が55%という結果でした。そこから考えると、国民が政治を信用していないから投票率が低いという相関が見られます。

このことから考えると、投票率が低い原因は政治家自身にあると言えます。既得権益を守ることに汲々として、国民の暮らしを二の次にする。国民の生活よりも利権を大切にすること。そこには大きな無駄が存在します。

また、今国会では今後5年で43兆円もの防衛費の増額が閣議決定で決められました。しかも、防衛費増額の財源に東日本大震災の復興予算のための「復興特別所得税」の一部を転用する方針にしました。更に増税により財源を充てることにもなりました。

自分たちは無駄を無くそうとせず、その一方で増税により国民に負担を押し付ける。これが今の政権与党の政治そのものです。

我が国は人口減少が進み、特に地



1962年佐世保市大宮町生まれ。
●学歴
藤原幼稚園、福石小学校、八幡小学校、清水中学校、青雲高等学校、京都大学工学部
●職歴
旧・川崎製鉄(現・JFEスチール)、衆議院議員小沢一郎秘書、長崎県議会議員、議会運営委員長を務める、衆議院議員(現在1期目)
●スポーツ歴
サッカー(川崎製鉄社会人サッカー部)、新極真空手(長崎県大会出場)

すえつく精一プロフィール

方は顕著です。日本全体では、2100年に人口は半分になると予想されていますが、平戸市を例にとると204年の人口減は566人であり、このペースで進むならば2100年に半減ではなく、50年後(2070年)には平戸市の人口は0人になってしまいます。まさに、地方の消滅のカウントダウンが始まっているのです。

それを止めるには、いまの統治機構を変えていくことですが、今の政権与党は変えようとはしません。なぜなら、長年与党で居たことから既得権益にがんじがらめになり、変えたくても変えることができないのです。

だからこそ、今の政治を改めていくこと(政権交代)が必要です。

これからもしっかりと信念を持って政治を変えて参ります。何卒、引き続きご支援を賜りますようお願い申し上げます。

国政報告会 小沢一郎代議士が講演

令和5年4月15日に、アルカス佐世保にて末次精一の国政報告会を行いました。

コロナ禍が続いたことにより大規模な集会は避けてきましたが、マスクの着用が個人判断になり、収束の兆しも見えてきたことから、当選後、初めてとなる国政報告会を行いました。末次精一は、ご支援の御礼と当選後の国会での取組みや活動報告を行いました。

また、報告会には、末次精一が秘書を務めた小沢一郎衆議院議員が来場いただき、熱弁をふるった講演をいただきました。

小沢一郎さんは、岸田政権の問題点を具体的に示され、議会制民主主義を日本に根付かせるためにも政権交代が必要であることを話されました。滞在1時間で帰京された小沢一郎さんでしたが、ご来場いただいた支持者の皆様からは、「いい話だった」という声を多くいただきました。

ご来場いただきました皆様には、改めて御礼申し上げます。



本会議に登壇

令和5年3月14日、衆議院本会議場にて、末次精一は当選後初めて登壇し、「地域公共交通の活性化及び再生に関する法律等の一部を改正する法律案」に対する趣旨説明質疑を行いました。

この法律案は、赤字ローカル線の運営について、国が地方に介入して存続の可否を決めていくための法改正を行うものです。

末次は、「地域や事業者、そして何より利用者となる住民の納得感を得るため、少数意見なども含め、幅広い意見を継続的に汲み取るための仕組みづくりについて検討すべき」という点など、9つの質問を国土交通大臣に行い、最後に、「移動が困難になる人々を生じさせないこと、自由に選択し円滑に安全に利用できることのために地域公共交通はあるのだという根本に立ち返り、国の責務を果たすべき。」ということを申し上げました。



委員会報告

令和5年2月20日
予算委員会第7分科会
経済産業大臣に質問

末次精一は、地方のエネルギー問題について経済産業大臣に質問を行いました。

政府は2050年カーボンニュートラルの実現に向けて、重要政策として取り組んでいます。そこで問題になっていることが、地域において賛成派、反対派が入り交じり、あらゆるところで相対にゆがんだ議論が生み出されているということだ。

末次精一は、地域振興とレジリエンスというものを中心とした進め方を議論していくべき時という論点で質問を行いました。

西村経済産業大臣からは、「指摘のとおり、地域における再生可能エネルギーの導入を推進していくに当たっては、地域に裨益する、この取組が非常に重要な要素だというふうに思う」という答弁がされました。

末次精一は、これからも再エネ事業が地域振興の大きな柱になる仕組み造りについてしっかり取り組んで参ります。



令和5年3月10日
国土交通委員会

末次精一は、住宅行政の空き家問題について質問を行いました。

空き家対策のうち、活用、推進に当たって各自自治体の関係部署が連携して取り組んでいますが、実際は、この連携に課題が多く、協業する民間事業者にも影響が及んでいることについて国の見解を正しました。

空き家については、地域での人口減少の進行も伴い増加の一途をたどり、所有者不明も含めて放置空き家も多く、大きな問題になっています。さらに、自治体のマンパワー不足もあり、国の方針が地域で取り組みにくいことも深刻な問題になっています。

末次精一は、これからも現場（地域）の声を聞き、国とのパイプ役となり課題解決に取り組んで参ります。
また、空き家は皆様の身近な問題になっています。お困りごとはぜひ事務所までご連絡下さい。

令和5年3月14日
地域活性化・こども政策・デジタル社会形成に関する特別委員会

末次精一は、デジタル田園都市国家構想に関して、導入する側の視点が強く、導入される側の視点を欠いていることを指摘したうえで、デジタル化に対応し得る地方をいかにつくるかという点について質問を行いました。

そもそも、日本は世界の先進国の中でも、デジタル化に大きく遅れをとっています。今後は、デジタル田園都市国家構想が、若年層の収入の場の確保につながり、同時に、地域高校の活性化や濃密な関係人口の創出を生むことで、地方のポテンシャルを将来に

向けてより一層高めるものになるように取り組んで参ります。

令和5年5月24日
国土交通委員会

末次精一は、原発30キロ圏内にあるローカル鉄道に対し、今後、公共性に加えて避難経路としての重要性を加味した評価を行うことを求め、国土交通大臣から指摘の取り入れについていくとの答弁を受けました。

この質問は、委員会に先立ち、松浦鉄道の今里社長からヒアリングを行い、問題点を認識した上で行いました。

末次精一は、これからも現場の声を大切に、しっかり取り組んで参ります。

意見交換会を開催

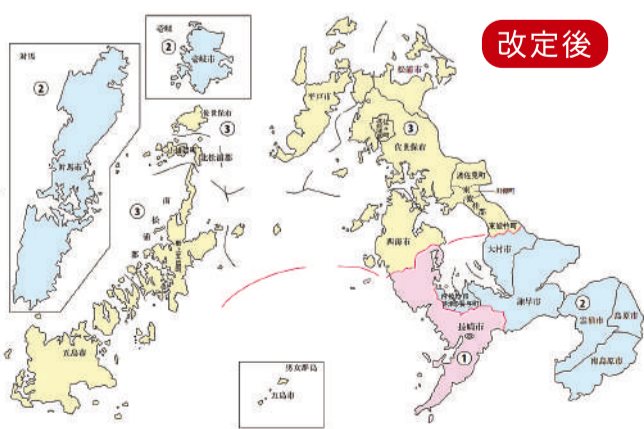
令和5年2月27日に、空き家問題について、国土交通省住宅局担当者とは地元自治体担当者、民間事業者代表を交えて意見交換会を行いました。



空き家問題の解決には、官民連携も重要なポイントです。情報の共有とそれぞれの現場担当者が抱える課題について、現場の声と共に真実の声（アンケートでの回答とは異なる答え）も聞くことができ、意義ある会となりました。

衆議院選挙区のご紹介

新長崎3区―黄色（佐世保市、北松浦郡、平戸市、松浦市、西海市、五島市、東彼杵郡、新上五島町）



【地元事務所】
〒857-0016 長崎県佐世保市俵町6-21
電話 0956-37-3535
FAX 0956-24-4811
【東京事務所】
〒100-8981 東京都千代田区永田町2-2-1
衆議院第一議員会館606
電話 03-3508-7176
FAX 03-3508-3606